基調講演を行ったアグネス・チャンさん（右）とオープニングイベントで童話発表をした増藤菜那さん

人づくりシンポジウム in 長洲町

ひとが生み出す「まちの元気」～今、わたしたちにできることは～

「人づくりシンポジウム in 長洲町」（長洲町、(財)自治総合センター主催）は11月3日、ながす未来館文化ホールで開かれ、約500人が来場、「元気」をキーワードにこの町の未来について考えました。

※同シンポジウムは、全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて開催したものです。

一人一人の元気がつくるこの町の未来。今、わたしたちに何ができるだろうか―。

人が生み出す「まちの元気」をテーマに開催したシンポジウムには、多くの住民が来場。基調講演では、歌手としてだけでなくエッセイスト、教育学博士などとして幅広く活躍するアグネス・チャンさんが「明るくさわやかに生きる」と題し、自らの生い立ちやボランティア活動などを振り返りました。「自分が幸せだと気付くことで世界は変わる。無我夢中に一生懸命生きて」と呼びかけると、会場は、たくさんの元気と大きな感動に包まれました。

後半は、町出身の山村啓さん、船津光さん、町内在住でさまざまな活動に力を入れている大野涼子さん、浦島義弘さんを迎え、「元気があふれるまちをつくるために」をテーマにパネルディスカッションを展開。それぞれの立場やさまざまな角度から繰り広げられる「まちの元気」についての意見に、会場を訪れた人は真剣な表情で耳を傾けていました。

また同日は、長洲小2年・増藤菜那さんによる童話発表や浦島義弘さんによる金魚のふれ売りも披露され、シンポジウムの開催に花を添えました。

パネルディスカッション Panel Discussion

「元気があふれるまちをつくるために」をテーマに繰り広げられたパネルディスカッション。まちづくり、人づくりについて貴重な意見が交わされました。

コーディネーター

前田　芳男氏

（有）トトハウス代表。行政計画の策定や人材教育に関するコンサルタント業務を主とする。本町でも「一区一創運動」推進アドバイザーや地域福祉計画策定のコンサルティングを担当。

パネリスト

山村　啓氏

九州産業交通ホールディングス(株)常務取締役。九州産業交通(株)取締役経営企画室長、九州産交バス(株)代表取締役社長などを歴任。松原区出身。

苦しい時こそ心を一つに

産交は、平成16年に経営破綻しました。その中で一番大切なのはやっぱりみんなの意識を変えていくことでした。苦しい時こそ明るい未来という希望をみんなが持たないとなかなかうまくいかないと思います。会社も町も基本は一緒。そこに働く人、住む人です。個々の力をいかに発揮して、一人一人が地域、町のために何ができるのかという小さい行動から起こしていくことが重要だと思います。町はそれを支援する、これが本当のまちづくりの姿だと思います。基本的にはここに住む人たちの元気、これが一番です。

パネリスト

船津　光氏

永方区出身。本年1月、全国大学ラグビーフットボール選手権で、帝京大学初となる日本一にチームを導く。現在、JR九州ラグビー部所属。

子どもの夢を応援してあげて

夢や目標をしっかり持ってそれに向かって努力することが大切だと思います。若い人たちにも、何かに目標を持って一生懸命になって頑張ってほしいですね。私たちチームが日本一になれたのは、部員130人全員が同じ目標に向かって一緒に頑張っていけたからだと思います。ラグビーを通して、人と人とのつながりを学びました。私はこの長洲町が大好きです。いつかは子どもたちにスポーツを教えたいですね。好きなことができたのは周りの支えがあってこそ。ぜひ、子どもたちの夢を応援してあげてほしいですね。

パネリスト

大野　涼子氏

町子育てサークル「てんとうむしクラブ」代表。楽しく子育てができる環境づくりを目的としてさまざまな活動を展開する。向野北区在住。

人と人との出会いを大切に

地域の皆さんのご協力をいただき、地域に根ざしたサークル活動をさせてもらっています。お母さんは「心の太陽」とも言われ、育児をする上で笑顔はとても大切です。お母さんがいきいきと輝き、笑顔で子どもと接することができるように、サークルの活動が元気の源となって明日への原動力となればうれしいですね。私自身も多くの出会いの中でたくさんの元気をいただいている毎日です。子育て支援やサークル活動を通じて、人と人との出会いを大切にしていけば、町の活性化につながるのではないかと考えます。

パネリスト

浦島　義弘氏

浦島養魚場代表。町養魚組合理事。長洲金魚の歴史を今に伝える、日本でただ一人の「ふれ売り師」。小中学校での普及活動にも尽力。磯町区在住。

絶やしてはいけない町の歴史

私は18歳の時に「金魚のふれ売り」を始めました。全盛期は、長洲町にも500人いたんですよ。長洲町は全国でも有数の金魚の産地。金魚は町の地場産業です。小中学校で子どもたちに「金魚」や「的ばかい」の歴史を教えていますが、子どもたちは興味を持って、覚えてくれます。この町の歴史を子どもたちに伝えていきたいですね。後継者の問題などもありますが、歴史を絶やさないように、一生懸命「金魚のふれ売り」でPRしていきたいと思っています。この声が出る限り、これからも町のために頑張っていきたいですね。